

東京可愛山同窓会 会報

題字 菊池史恵

発行
東京可愛山同窓会
編集責任：吉留和男
Vol. 14
平成 27 年 4 月 1 日

「感謝の気持ちは、 おもてなしの心」

東京可愛山同窓会

会長 愛 甲 彰 人
(川高十六期)



同窓生の皆様、お元氣でお過ごしですか。

いよいよ平成 27 年度総会を開催する季節になりました。

近年、地殻変動や天候異変で自然災害が多く発生しており、霧島桜島火山帯も活動が活発化してきているようです。関東近辺では今でも東北地震の余震に気を病む日々です。

思いがけない地方で考えもしなかったような災害の連続で、意識のないところでの突然の災害は傷口を広げます。災害にどの様に備えるかの普段からの心構えがいかに大切かを考えさせられます。

さて、昨年はバスケットボール部が夏のインターハイ、年末のウィンターカップと二度の全国大会に出場し、関東近県の在住者の期待と希望を集め、多くの卒業生が応援に駆けつけました。このような機会に同窓生の輪を広げ、

触れ合いの場が出来ることは大変喜ばしいことです。

今年、五十回の記念すべき年、立ち上げから組織を作り上げられた方々に、ありがとうございます。申し上げるとともに、今後もお力添えをお願いいたします。

継続して開催できることの先達の皆様のご苦労に感謝し、おもてなしの心で運営されていた基本に戻り進めたいものです。現在の構成は尻窄みの状況を呈しております。ご年配の方々の増加、若年層の東京離れ、いろいろと手を尽くす中で関東地方に住の皆様のご協力とご参加の願いとお仲間・お友だちへの呼びかけをお願いいたします。

皆様のご意見を形にして活動を行っており、中堅・若手会員から期待されているところです。薩摩川内会・鹿児島県人会と接点もあり、情報の入手希望の方々、故郷の熱気を感じたい方々参加してみても良いでしょう。

各学年同期会・クラス会等を可愛山同窓会を念頭に置いて計画を練っていただけたら、参加者数の積み上げにも成るかと思えます。本同窓会が六十・七十年から 1 世紀と引き続いて開催できるよう皆様の細部に渡っての協力体制を願ってやみません。

会員の皆様、是非ご意見をお寄せいただき、過ぎやすい空間を作成いただけるようご協力をお願いいたします。なお、総会での催しや参加希望の活動などございましたら、学年幹事や役員までお声を寄せて頂けましたら考慮いたしますと存じます。

第 50 回 東京可愛山同窓会のご案内

会長 愛甲 彰人



日 時：平成 27 年 6 月 6 日 (土)
受付開始：11:00
第 I 部 記念祝賀公演 11:30 開演
第 II 部 総会・同窓会 12:30 ~ 15:00

場 所：東海大学校友会館「阿蘇の間」
〒100-6035 千代田区霞が関 3-2-5
霞が関ビル 35 階
TEL 03-3581-0121

会 費：一人 8,000 円 ご夫婦 15,000 円
80 歳以上 5,000 円
卒業後 5 ~ 10 年 5,000 円
(すべて年間維持費 1,000 円込み)
卒業後 4 年間無料 (但し、年間維持費 1,000 円)

連絡先：川高 20 期 尾曲 博司
TEL 090-4676-3674
川高 24 期 皆元 正幸
TEL 03-3265-5890 (昼間)
TEL 045-903-8486 (夜間・休日)

ご出席の場合、5 月 25 日 (月) までに所定の方法 (P16 を参照) でお手続きして頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

50 周年記念祝賀公演



◆◆◆ 紹 介 ◆◆◆

本 名：瀬戸口 次男
出身地：鹿児島県種子島
生年月日：1948 年 11 月 25 日
出囃子：木賊狩 (とくさがり)
紋：花菱 (中陰花菱)

はやしやたねへい
林家種平 師匠

種子島観光大使

芸 歴：昭和 44 年 林家三平に入門
昭和 49 年 ニツ目昇進
昭和 60 年 真打昇進
平成 24 年 文化庁芸術祭参加



種子島

初高座：昭和 45 年 8 月 目黒名人会
演目：うなぎ屋

趣 味：ゴルフ (ハンディ 4) 日刊プロ・アマ出場

※林家種平オフィシャルHPから事前許可を得て掲載しています

東京可愛山同窓会第五十回総会によせて

可愛山同窓会会長 山田島 稔(川高十七期)



東京可愛山同窓会会員の皆様には、かねてより可愛山同窓会に對しまして物心両面からのご支援・協力を賜り有難うございます。厚くお礼申し上げます。

この度、東京可愛山同窓会が本年度発足五十年を迎えられます。記念すべき節目の第五十回総会を開催されますことを心からお慶び申し上げます。

第一回同窓会が開催されました昭和四十一年を検索しますと、日本の人口が一億人を突破し、ビートルズが来日公演、日産サニーとトヨタカローラが発売され、ベストセラーは三浦綾子の氷点、歌謡曲は橋幸夫の霧氷と千昌夫の星影のワルツが大ヒットした年、そしてミニスカートが大流行した年でもあるようです。地元では鶴田ダムが竣工しており、こうして並べてみますと五十年という時の永さをしみじみと感じます。

時代が変わっていく中、東京可愛山同窓会が歴代の役員の方々の献身的努力と会員の皆様の絶大な協力の下、半世紀もの長きにわたり、東京・関東地区の可愛山同窓会員の情報交換と会員間の親睦を図る場として重要な役目を果たされて来られたことに敬意を表しますと共に、これまで母校の発展と後輩たちの育成に多大の貢献をいただいていますことに心から感謝申し上げます。

さて、地元では、三月七日に南九州自動車道の高江ICと都IC間が開通して、鹿児島から水引までがようやくつながったことにより、高速船「甕島」が発着する川内港への鹿児島方面からのアクセスが格段に良くなりました。更に、十六日には県立公園だった甕島が国定公園の指示を受け告示され「甕島国定公園」が誕生しました。これを好機として甕島人気がより一層盛り上がるのが期待されています。

又、運転停止中の全原子力発電所のトップをきって、昨年七月に再稼働に向けた新規制基準による審査書案の了承を原子力規制委員会から受けて全国でも話題となった川内原子力発電所で、十八日に同委員会より川内一号機の工事計画が認可されました。賛否両論色々な意見がありますが、川内原子力発電所が再稼働へ向けて大きく踏み出しました。九州電力には安全を第一に、安全性・信頼性向上へ真摯に取り組んで欲しいと願います。

最後になりましたが、東京可愛山同窓会のみならずの発展と会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念してご挨拶と致します。

東京可愛山同窓会五十周年に寄せて

鹿児島県立川内高等学校第二十六代校長 藤崎 恭一



「東京可愛山同窓会」の会員の皆様には、益々御清祥のこととお喜び申し上げます。

私は、この度の定期人事異動により県立屋久島高等学校から赴任して参りました。

今年度創立百十八周年を迎え、県下の普通科高校として二番目に設立された県下有数の伝統ある名門高校の校長として勤務できることは極めて光栄であり、身の引き締まる思いです。また、川内高校に今まで教諭・教頭として勤務させていただいており、今般で三度目の勤務ができる喜びをかみしめております。微力ではありますが、川内高校の更なる発展のために全力で職責を果たし貢献したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本校は校訓「自立・敬愛・剛健」の精神のもと、校是とする文武両道を実践し、この春の卒業生も進学面では、国公立大学合格者が一二〇名(現役は京都大学等を含め一〇六名、過年度卒は十四名)、私立大学にも早稲田大、慶応大、明治大などの有名私大をはじめ多数の合格者を出しております。また、部活動面におきましても、全国大会には東京可愛山同窓会の皆様方に毎年熱い応援をいただいています男子バスケットボール部(県大会インターハイ・県大会ウインターカップ四連覇)、九州大会には陸上部、漕艇部、水泳部、空手道部が出場するなど、数々の実績をあげております。先輩方が残された有形無形の遺産を糧として、新しい伝統が創造されることを大変うれしく思っております。

これまで勤務された教職員及び卒業生の皆様方が築かれた良き校風と伝統を踏まえ、特に、今年度から創立百二十周年に向けて、文武両道の普通科高校の中では「取組み日本一の学校」を本校躍進のキャッチフレーズとしました。そのためにも学業・部活動に加え、清掃・挨拶・ボランティア活動等の更なる推進により、人間としての基盤創りを重要視し、将来的に社会に貢献できる生徒の育成に努めてまいりたいと考えております。

終わりに、「東京可愛山同窓会」の益々の発展と会員の皆様方の御多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。



協賛寄稿①

東京可愛山同窓会のさらなる発展を願って

関西可愛山同窓会会長 山口 健一（川高二十期）



東京可愛山同窓会 50 周年、誠におめでとうございます。昭和四十一年というと、東京オリンピックが昭和三十九年で

昭和四十三年に大阪の大学に入学した私は、ふるさと川内から、急行列車で、二十時間近くかかって大阪駅に降りたのを覚えてい

暮らしはじめた大阪は、わからないことばかり。まず大阪弁がわからず、こんな時大阪弁では何というのだろうと、考え考え、言葉を探して受け答えをして

そんなこともあって、夏休みには川内に飛んで帰り、なかなか新学期が始まっても大学に戻らない息子を、お袋が心配したものでした。

それから四十八年、すっかりまわりからは「大阪人」と思われているのですが、いまだに大阪は出稼ぎに来ているところ。

十八年しか生活しなかった川内が、やはり原点。「ふるさとは遠くにありて思うもの」それだけ懐かしくて忘れがたいものです。

今は、両親とも亡くなったのですが、実家もそのまま、お墓もそのまま、二、三か月に一回は帰省しています。

東京同窓会のみなさんも、きつとどこかにふるさとのおいを感じながら、毎年集まっておられると思います。

同窓会の共通の悩みは、人が集まらないこと、特に若い人たちをどう集めるかが悩みの種です。現役でバリバリ働いて、子育ても忙しい世代にとっては、同窓会どころではないというのが正直なところでしょう。また、学生さんにとつても、見も知らない先輩たちのところに突然呼ばれても、どうしたらいいのかわからないということもありそうです。

その為には、行って良かった同窓会、また行ってみたいと思われるような運営が不可欠です。

その出発点は、同窓会があることを知ってもらい、まず来てもらうこと、そして来てもらった人がまた行ってみたいと思ってくれる会にすることだと思っ



その為に、二次会を学年ごとの同窓会にしようと呼びかけたり、講演会の講師を同窓生から選んで、その学年の集客の目玉にしようと考えたりしています。ここ数年、関西は、川内高校を新しく卒業した大学生や新社会人を対象に、五月に同窓会主催のバーベキューパーティを開催しています。多いときは十人近くの新人が参加し、六月の同窓会に来てもらうよう勧誘しています。その結果、この間は、学生さんの参加が増えています。関西では、せめて百五十人から二百人は参加する同窓会総会にしたいと考えていますし、同窓生の間での交流が、単なる交流ではなく、仕事や生活の上でも役に立つものになったらもつといいのにと願っています。これからは、東京と関西の交流をより一層深めて、可愛山同窓会の全員につながることを期待しています。

協賛寄稿②

先達の後輩を想う熱き心を絶やさずに

福岡可愛山同窓会会長 新留 育郎(川高十七期)



東京可愛山同窓会創立五十周年おめでとうございます。皆様
の母校へ熱き想いのご功績に深甚なる敬意を表すると共に更なる
飛躍発展を祈念致します。

川高卒業後五十年を迎えた私は去る三月二日、同期生百十二名
と川高第六十七回卒業式に参加してきました。校舎は建て替つ
ていきましたが、校門や校舎の配置、裸足で駆け回った校庭や遙かに望む紫尾の
嶺に当時の面影を偲ぶ事が出来ました。

式典は、卒業生三百二名の入場、国歌斉唱、卒業証書授与、校長祝辞、在校
生代表送辞と厳粛に進み、卒業生代表の答辞はまるで五十年前の我らがホープ
K君の声に聞こえ、あの頃の様々な思い出が走馬灯のように駆け巡り、仰げば
尊しに胸がジーンとなり感動と感激もひとしおでした。

高校1年のある日の放課後、担任の小田原先生に呼ばれ、「東京の先輩たちが
ポケットマネーを出し合って君達に育英資金を下さるることになった」と白い封
筒を手渡されました。中には聖徳太子(千円札)が入っていて、前年、父を亡
くし母と兄に頼っていた私には「足長おじさん」の出現でした。早速、欲しかつ
た「数ⅠⅡのチャート式参考書」を購入し勉強に励み、苦手の数学も得意とな
り自信も持てるようになりました。「人生なんちゃない。なんとかなる」という
私の楽天主考はその頃に芽生えたのかも知れません。

貴会の創立四十周年記念誌で貴会設立に尽力されたのも「足長おじさん」達
だったと知りそのご恩をお返ししなければと心新たにしています。又、その記
念誌に亡き長兄の六夫(川中四十五期)の名を見つけ貴会とのご縁を感じてい
ます。

さて、福岡可愛山同窓会もご多分に漏れず若手会員の参加が少なく、現在、
若手会員を引き寄せられるような魅力ある同窓会活動を模索しています。二年
前に福岡可愛山同窓会が中心となり「福岡さつま川内会」を設立して故郷の
観光・物産・企業誘致のPRなど故郷活性化の支援活動に取り組み始め、今年
一月には「福岡さつま塾」を開催し、福岡在住の薩摩川内市出身の学生及び若
手社会人の学習と交流の場を設けました。と言うのも、「今や会員相互の親睦を
図る目的だけでは若手会員の心は引き付けられない」。仕事や生活の様々な場
面で、後輩が先輩を頼り先輩は後輩の役に立てるような場、お互いに助け合っ
て勇気と元気をもらえるような場があれば同窓の絆も深まりひいては同窓会の
活性化にも繋がるのではないかと考えたからです。明日の日本を担って欲し
いと同窓の若者たちに夢を託した先達の熱き想いを絶やすことなく、貴会と連
携して、母校の発展・後輩達の育成に少しでも貢献できたらと念じております。
今後ともご指導ご鞭撻、宜しくお願い致します。

五十周年寄稿

東京可愛山同窓会第六代会長 菊池 史憲(川中四十六期)

一、創立五十周年、おめでとうございます。

東京可愛山同窓会設立から五十年がたつ。通称「可愛山会」の出席が、川
内中学・川内高女と川内高校との割合が対等であった時から、今は十五分
の一にも足りない。

川内高校の卒業生が圧倒的に多くなった。

これが最近の先輩対後輩の割合といつてよいのだろう。

私は川内中学四十六期生で、昨年総会是一人だったが、川中四十六期生の総
会に対する寄付金千円の寄贈者は少なくとも十名以上はいた。有難いこと
と感謝しています。

創立四十周年記念総会は帝国ホテルで開催した。川中四十六期生は二十名
近く出席した。

二、本年の創立五十周年記念の総会にあたり、こんな事を書くのもおかしなこ
とかもしれないが、川内中学四十六期生の立場からみた東京可愛山同窓会
の立ち位置である。決しておかしいこととは思わない。

鹿児島県立川内中学校、鹿児島県立川内高等学校、鹿児島県立川内高等
学校の歴史の流れについての思いの話である。

私は、法律の専門家として五十年以上経過した。

顧みるに十分とはいえないかもしれないが、今も弁護士倫理委員会の委員と
して倫理研修のあり方について努力している。知らないことと足りないことを
毎日、資料をあさり、勉強することはとても心だてが暖かくなる。そして、旅
立つことを迎えるときが来る。

全人生を回顧するとき、笑い、心豊かに生きてきたことを幸せであったとよ
ろこぶ。

鹿児島県立川内高等学校の絶え間ない努力と発展を心から祈念したい。

五十周年記念寄稿

「初参加の記憶」

松下 寿一（川高七期）

初めて東京可愛山同窓会に参加したのは昭和六十一年、五十歳直前の頃だったと思う。会発足二十年の頃に当たるが、私はそれまでこの会の存在を全く知らなかった。同期会にも無縁であった。富山県に本社がある建設会社に就職し、東京近辺のトンネル工事現場の日常業務に追われていて同窓の仲間のことなど考える暇もなかったのであるが、初参加の時に同期幹事から私はずっと富山にいたいと思っていたのでこれまで案内も出さなかったのだとも聞かされた。

新宿の中華飯店「豪華」で行われたこの年の会には、同期生の出席者は二人の幹事、松下和良・小田原秀明両君と私の三人だけであった。三十数年ぶりに歌った校歌は思いの外スムーズに歌うことが出来た。この頃、今のように締めで万歳三唱をしたかどうかは憶えていないが、下青木会長の手締めだけは良く覚えている。拍子木をたたくような高音の三本締めは、その後出席するようになってきた太平会や、後に発足した東京川内会の締めで良く聞かせて戴いた。

この日は同じ「豪華」の別室で同時刻に同期会も開かれていた。幹事は掛け持ちで苦労したであろうが、私は三本締めの後二次会的気分に参加、こちらには同期生が二〇人以上出席していた。何しろ四〇〇人の同期生である、顔を見て思い出した人、名前を聞いて思い出した、全く思い出さない等様々な仲間であったが、それでも閉会の頃までには互いに打ち解け、故郷の話が弾み、まるで旧知の間柄であったような感覚になっていた。この体験以降私の同期・同窓・同郷の人達との交流が爆発的に増えていった。

私に東京の同窓会のことを教えてくれたのは当時、今の私くらいの年齢であった父親であった。川中六期の父が上京した時に在京の同期生から聞いた話として私に伝えてくれ、出席を薦めてくれた。たまたま同時期に前記二人の幹事から案内の電話を貰ったのであった。

写真は昨年百歳で他界した母親の遺品の中にあつた父の川内中学卒業証書である。文体や校長先生の肩書きなどに昭和初期の雰囲気を感じられ、父親のことを思い出したついでに掲載させて貰った。母親の福岡高等女学校卒業証書も

あるがほとんど同じ文面で校長先生は従五位とある。余談となるがこのような位階は現在では故人にのみ与えられ、戦後の故総理大臣の多くは従一位か正二位に叙せられているようである。

同窓会への参加者が段々少なくなっている要因を考えると、先ず親子兄弟が同窓のケースが減っている事が考えられる。親の転勤でたまたま川内に来て高校に入り、また引越して行った人等は同窓会への興味を示さない。現在は益々転勤者の子弟が増えている。少年期の故郷の思い出が薄いのである。又、同期会には出るが同窓会には出ないと言うのも同窓会や同郷会の宿命である。最後に若い時は同窓会どころではないというのが本音ではないだろうか。生活に落ち着きが出てくる四十歳代後半の同窓生を勧誘する方法を考えなければならぬと思う。



健康講和

身心の健康と体温

東京可愛山同窓会設立50周年本当におめでとうございます。この大きな節目をむかえるにあたり、日頃おもっていることについて一言述べさせていただきたいと思えます。

この世に生を受けた以上、みな健康で幸せに生きたいと願います。それがなかなか容易ではありません。そのためいろいろな試みが世界で行われています。

私は生来体が弱く、幼い頃からよくせんじ薬や針灸のお世話になりました。大学で臨床心理学やカウンセリングを学ぶ過程で、これは心身一如の東洋医学ではないかと思い、並行してその種の学校に通い、免許を取得しました。大学在学中もそうでしたが現在もそれらを生かし、身心カウンセリングの研究・実践やカウンセラーの養成に携わっています。その間に気づいたことは、身心の健康にとって、体温が非常に大切な意味を持っているということです。つまり体も心も常に温かさを求めているということです。

皆さんはご自分の平熱をご存知ですか。専門家によると36.5度から37.0度が最も健康的で免疫力が高くなる状態とされています。ちなみに27.0度は死体の体温、33.0度は冬山で遭難して幻覚が出てくる凍死寸前の状態、34.0度はおぼれた時に助かるかどうかの境目の状態といえます。また、35.0度はがん細胞がもっとも繁殖しやすい体温、35.5度は排泄機能が下がり、自律神経失調症やアレルギー症状が出やすくなる体温、36.0度は少し体温が低下して鳥肌が立ったり筋肉を震わせ熱産生を増加させようとする段階をいいます。つまり体温は体の免疫力と非常に関係が深く、その中心となって働くのは血液の成分の一つである白血球です。

すなわち体内にウイルスなどの病原菌が侵入したときには、白血球が増えて異物を攻撃して無力化させます。体温が1度下がると白血球の働きが30パーセントも弱くなるそうです。逆に体温が平熱より1度またはそれ以上あがると、その白血球の働きが5から6倍になるといわれています。

いいかえれば白血球の働きをよくすることが免疫力の強化につながり、それには体温が密接にかかわっていることがおわかり頂けると思えます。がんになる人には体温の低い人が多く、低体温だとがん細胞の増殖が盛んになるといわれています。がんは熱に弱く、例えば体内でも最も温度の高い心臓や脾臓はがんになりません。それに対し、比較的温度の低い口腔や咽頭、肺や乳房、食道、胃や腸、膵臓や肝臓、卵巣や膀胱などはみながんになりやすいのです。つまりこれだけ医療が進歩しているにもかかわらず、がんの死亡者数が減るどころか増える傾向にある背景には老若男女を問わず体温が低くなっているからではないかというわけです。

さて東洋医学はよく気の医学といわれます。気とは命つまり生命のもとのエネルギー、具体的には主として血液リンパのことでこれがよく流れているときが健康、流れが悪くなり滞ったときが気が病むつまり病気ということになります。ここでリンパとは上述の白血球とほぼ同じで血管外ではリンパ管の中を通りばい菌やウイルスを食べたり殺したり痛みどめなどさしずめ体の中のお医者さんのような役割をしてくれます。これらの働きを良くするには体を温かくすることが大切で、その中枢は間脳の視床下部にあるとされています。

それはちょうど片方の手の親指と人差し指を両眼の眉毛のところにあて、もう片方の親指で後頭部のちょっとへこんだところを気持ちいいように押すとそこが前述の視床下部にあたります。それは自律神経の特にリラックスにかかわる副交感神経の代表である迷走神経の中枢でもあり、ホルモンの総元締めである脳下垂体もほぼ同時に刺激することになり、昔から特に重宝がられているつぼです。あわせて両足の指の間に手の指を挟み、上下、左右、ぐるぐるまわしを気持ちよく行うと気の持ちがよくなる、つまり命の持ちがよくなって長生きできるというわけです。特に足は、両方とも内側は主として静脈リンパの流れで下から上に、外側は動脈の流れで上から下に向かって流れており、その方向で内側をより重点的に流れがよくなるようにマッサージなどを行うことが大切です。これを夫婦、恋人同士、友達同士で行うと皆様の健康とお幸せにつながると信じ、一言述べさせていただきました。



第7代会長
橋口 英俊
(川高7期)



半世紀！時空を超えた卒業式

『もうじき俺たちの期が卒業式に呼ばれる年になるけど、関東からも大勢来てほしいんだ』と同期の山田島会長に囁かれたのは、3年前の東京可愛山同窓会の席上のことでした。その後、当日同窓会に出席していた仲間たちとともに東京 17 期会を立ち上げ、同期会を開くたびにみんなで川内に行こうと声を掛け合って今年に至りました。

3月2日に開かれた第67回卒業式には関東からの20数名を入れて115名の仲間が集まりました。受付会場の可愛山会館に入ると、卒業以来初めて出会う仲間も数多く、やあやあ！〇〇さん？ どうしてた？ などという声が飛び交ううちに式場に案内され、最初に目に付いたのが緞帳でした。描かれている川中、川高女、川高の校章に創立以来118年の歴史の重みを感じます。吹奏楽の演奏に導かれて卒業生302名の入場に始まり。国歌斉唱、卒業証書授与、校長式辞、来賓祝辞、在校生送辞、卒業生答辞、校歌斉唱と粛々と進行。式の終了後、緊張感と爽快感をみなぎらせつつ未来に向かって旅立っていく若者たちに、我々も背筋の伸びる思いで拍手を送っていました。

今まで私の兄や姉たちから卒業式に出てよかったという話を聞いてはいたものの、実際に出席して50年後輩の若者たちを身近に感じることで、18歳当時の思いを振り返り、自分にもまだ何かやるべきことがあるのではないかと思直すひとときでした。

終了後、同期生の案内で市内観光。3号線を通りながら50年間の商店街の変化を感じ、川内港では甌島が市に加わったことを改めて感じ、原発を考え、最後に寺山から市内を一望し、可愛山の名称は江の山（水の中に浮かぶ山）から来ていることを知るなど、蘊蓄と感慨に満ちた時間を過ごしました。そして懇親会、二次会と、参加者全員で心ゆくまで川内を堪能する一日でした。

帰京後、この行事は昭和49年前から続いていると友人に紹介すると、口々に県立高校でこういった行事をやるのは珍しいし、素晴らしいとの感想をもらいます。今後とも是非継続されるよう願っています。

最後になりましたが、同期会の幹事を務めていただいた諸氏、そして川内高校の関係者の皆様のご貢献に心から感謝申し上げます。



桐原 保法
(川高 17 期)



ふるさと通信

薩摩川内市教育委員会 教育部文化課 専門職 村岡 斎哲
(川高29期)

おじゃったもんせ薩摩川内市「国民文化祭」

今年鹿児島県では、第30回国民文化祭・かごしま2015が10月31日～11月15日の16日間開催されます。

この国民文化祭とは、全国各地で行われている各種の文化活動を全国的規模で発表、競演する機会を提供することにより、国民の文化活動への参加の気運を高め、新しい芸術文化の創造を促すことを目的として、昭和61年度から毎年、各都道府県持ち回りで開催されている国内最大の文化の祭典です。

薩摩川内市でも、10月31日～11月8日の期間で次の5事業が開催されます。



「全国はんやの祭典」

南方からの黒潮と共に広がり、薩摩川内市民に古くから愛され、市民の体に根付いている「はんや」を全国はんやの愛好家と共に唄って踊る、交流の場とします。

「薩摩川内こころの川柳大会」

全国及び海外の川柳に親しむ人々から広く作品を募集するとともに、愛好者相互の交流を図り、こころの川柳と入来麓伝統的建造物群保存地区の魅力を発信する祭典とします。

「全国まごころ短歌大会」

全国及び海外の短歌に親しむ人々から広く作品を募集し、愛好者の交流を図るとともに、万葉集の代表的歌人である大伴旅人・家持ゆかりの薩摩国分寺の地、薩摩川内市に集い、短歌の未来へと結ぶ大会とします。

「文弥節人形浄瑠璃の祭典」

全国の4県だけに伝承されている文弥節人形浄瑠璃保存会が、今回全国で初めて一堂に会し、合同公演、記念講演及びパネルディスカッションを通し、保存会活動の実態や問題点を語り合い、互いに確認しあうことで、浄瑠璃の保存伝承へつなげていくことを目的とします。



「甕島の生活と文化の祭典」

「長目の浜及び潟沼群の植物群落」が3月10日に国の天然記念物として指定され、更には、3月16日に、国定公園に指定された甕島は、黒潮の流れに乗って育まれた民俗芸能や多様な生活文化、豊富な海産物を有しています。太古の昔より大地が創造したトンボロ、長目の浜、断層群、恐竜化石など自然が作り上げた甕島の魅力を総合的に紹介し、交流、体験、学習しながら、甕島の日常生活に根ざした文化の素晴らしさを全国に情報発信します。

是非皆様も、本市で開催される国民文化祭に参加して下さるようお願いいたします。

終わりに、東京可愛山同窓会の益々のご発展と会員皆様のご健勝ご活躍を祈念いたします。

追伸：国民文化祭については、市のホームページ (<http://www.city.satumasendai.lg.jp>) をご覧ください。

東京可愛山同窓会五十周年に寄せて①

可愛山同窓会との出会いとふるさとへの思い

石上 聡子 (川高三十一期)

(旧姓 元石)

若いころは、鹿児島出身であることや鹿児島弁と言うのはなるべくなら隠したいと思っていました。全国的に通用する人間になる。と言う事を目標に一生懸命仕事や人生を歩いていました。しかし、『蛙の子は蛙の子』、『田舎育ちは田舎育ち』。鹿児島弁は、私のDNAに組み込まれています。

鹿児島出身の方と知った瞬間から私の口から鹿児島弁がポロポロ出てしまいました。ある日、仕事帰りに夫と駅で待ち合わせをしました。

改札を出て来た夫は、ネクタイはひん曲がり、シャツはでれんとズボンからはみ出した格好で私の方に歩み寄って来ました。

つい出た言葉が、『もう、ずんだれた格好をして……。もっとピシッとした格好で帰ってこんね!』『ずんだれ』、うん、このニュアンスに変わる標準語は無いな!と思わず笑みがこぼれてしまいました。やっぱり、鹿児島弁は良いなあ〜と実感しました。

そんな事を感じながら過ごしていたある日、可愛山同窓会と出逢いました。それは、今から7〜8年前のあるセミナーがきっかけでした。セミナー会場で私の横に座った方が、セミナー後の食事会で桜島の写真が載ったパンフレットを広げておられました。

私は、思わず『私も鹿児島出身です』と声をかけていました。その方は、甕島の出身でした。その方から県人会や薩摩川内市の会がある事を教えて頂き、初めて薩摩川内市の賀詞交歓会に出席しました。そして、そこで久保先輩と出会い、この時の久保先輩との出会いこそが可愛山同窓会との出会いです。久保先輩は、緊張している私にニコニコしながら声を掛けて、色んな方に私を紹介してくれました。

出会いは不思議なもので、あのセミナーで横に座った方と出会っていなければ久保先輩との出会いも可愛山同窓会との出会いも無かつたでしょう。久保先輩との出会いから、毎年可愛山同窓会に出席し、諸先輩方と田舎の話をしたり、色々な話から勇氣やアドバイスを頂いたり私の世界観がより広がりました。

何よりも、故郷を離れ頑張っている人にとって、東京のど真ん中で鹿児島弁でそれも川内弁でワイワイしゃべれるのはホッとします。先輩たちと話をしていると『私の故郷は何が良い所だろう』と、地元にいる時は気付かなかつた故郷の良さに気付く故郷が大好きになりました。若い頃は隠しかつた方言や出身地でしたが、諸先輩方々と出会った事で今ではわが故郷を自慢し宣伝しまくりです。

薩摩川内市が大好きになった私は、川内川の辺を桜の木が並び、春の堤防は花見の人で賑わい、川は屋形船で川上りをしながら花見を楽しめる川内川が、鹿児島県の名物市になり観光都市になる事を夢見ています。そして、その桜は高校の卒業生が卒業の記念樹として植樹して行きます。

春になると、薩摩川内市を桜の川が流れる風情。考えていたら『チャリン・チャリン』という音も聞こえてきました。

東京可愛山同窓会五十周年に寄せて②

私と父の同窓会

菅野 妙子 (川高三十七期)

(旧姓 鬼塚)

早いもので高校卒業から三十年が過ぎました。卒業式で思い出すことは、式が早く終わればいいのにも思いながら下を向いていたことと、うまくいかないことばかりで悔し涙をこらえ歯を食いしばっていたため、校歌が歌えなかつたことです。

上京してからずっと、父(川高五期)から可愛山同窓会やふるさと会に行つてみなさいと言われていましたが、同窓会どころか、同級生と会うことすら、ほとんど無く過ごしてきました。

平成二十五年、同級生の一人から若い世代が同窓会への参加が少ないから都合がつく人は参加してくださいとメールがありました。

前年に父が亡くなり、父がいつも話していた同窓会というものがどういふものか見てみたいという気になり参加しました。

案の定、同級生は誰もおらず、五十代以降は十人にも満たず、一つのテーブルに収まる状態でした。初めての顔合わせで何を話していいのやら。

しかし、初めての参加者として前に出て一言話した時、先輩方から小さななどよめきがあり、席に戻ってからは、次々にテーブルまで来てくださる方々がいました。

私が話した一言は、「東郷小・中学校出身で旧姓鬼塚、川内高校の校歌の作詞をしたのが昨年亡くなった父の従兄の寺田四郎であることが父の自慢でした。」とそれだけでした。

たったそれだけで、実家が近所なのではないかという方、父の同級生の弟で子供時代よく遊んだという方、母が嫁入りする前に父と出会ったところを知っている初めて会う親戚の方、さらに、寺田四郎先生は晩年どうしていらしたかと訊ねられる方もいました。

四郎さんが川内高校の国語教師をしていた当時校歌の作詞をしたことをその同窓会で初めて知りました。一年に一回秋の親戚の集い千代菊会の歌を作詞したのも四郎さんでした。

子供のころ会ったあのおじいちゃんやがんで歌を作るのかと思っていました。父の在学中に校歌の作詞をした従兄の国語教師は誇りで、親戚の歌の作詞をしてもらうのも四郎さんしかいないという思いだったのだろうと合点がいききました。

私は、同窓会で今まで知らなかつたことを知った以上に、同窓会を中心に作られた渋谷鹿児島おはら祭り踊り連にも参加しています。おそらく父が同窓会に行きなさいと言っていた意図以上に今ではつながらが大きくなっています。さぞかし満足していることと思います。

東京可愛山同窓会五十周年に寄せて③

世代を超えたご縁に感謝



柏田かおる (川高四十期)
(旧姓：高田)

東京可愛山同窓会発足から五十周年を迎えられたとのこと、とても喜ばしく存じます。そして、これまで先輩方が築かれたこの会に参加できますこと、心より嬉しく思います。

寄稿させていただくにあたり、川内高校を卒業し故郷を離れた日のことを懐かしく思い、郷愁に浸りました。私は四十期生、昭和最後の卒業生でした。鹿児島本線を北へ、左手には陽をあびてキラキラ光る海を眺めながら、期待と淋しさを胸に故郷を旅立ったのはつい先日のようにも思いますが、その頃に誕生した平成生まれの方と仕事するようになり、時の流れを思い知ります。川内高校を卒業後、広島にある私立の女子大を出た後は、上京しIT企業へ就職。官公庁のオンラインシステムを構築するシステムエンジニアになりました。忙しいながらも充実した仕事。そして、都会での新しい仲間との時間。帰省するのも年に一度。すっかり、鹿児島弁、川内弁を忘れてしまった生活でした。現在は起業し、教育関連、衣食住など女性のライフスタイル関連のデザインと映像制作をしています。自分で事業するのは、思いのほか大変でした。いい時も悪い時もありました。そんな中、年に数回、故郷の先輩方に会う機会をいただくことに。故郷を離れて二十年近くも経つてからです。東京でご活躍の先輩方に会う度に、励まされ元気をいただくような日々。たまに聞く鹿児島弁や川内弁も心地よく耳に響きます。懐かしい話に故郷の情景が目につかび元気をいただきます。

先輩方との付き合いが多かったのですが、最近は後輩達との縁もでき、家にも遊びにきてくれるようになりました。お酒を飲み交わし尽きない話に笑顔が溢れる時間が愛おしく思います。まだ、頼りになる先輩にはなれていませんが、私が先輩方にしていただいたことを、後輩にしていけるようになれたらと、それもまた励みになります。そして、故郷にもなにか恩返しができることはないか考えていきたいと思えます。特に子どもたちの教育の分野で何かできないかを模索しています。様々な世代の方が集まる可愛山同窓会が、これからも益々発展していくことを願わずにはられません。ありがとうございます。



東京可愛山同窓会五十周年に寄せて④

川内高校で学んだこと



加藤 優香 (川高五十五期)
(旧姓：田畑)

私は第五十五期卒業生の加藤優香と申します。大学卒業後に上京し、現在外資系企業にてアジア地区をベースに働いています。

川内高校の学生生活の中で、今でも役に立っている教訓があります。それは「文武両道」の精神です。今回可愛山同窓会会報に寄稿させて頂く上で、先輩方には「私もそうだった」と川内高校時代を懐かしんで頂くきっかけに、また在校生の方々には学生生活がどのように一社会人の私の糧になっているかということを知って頂き、何かの気づきにして頂けたら幸いです。

私は高校時代水泳部に所属していました。素晴らしい記録を高校に残すような選手ではありませんでしたが、自分の記録を常に更新しようと部活に一生懸命励んでいました。また海外と関わるような仕事がしたい！という夢がありましたので英語と歴史に特に力を入れて勉強も私なりに頑張っていました。川内高校がすごいのは、校訓の「文武両道」がただ校訓として設定されているのではなく、その校訓が校風となり、学校中に行き渡っていることだと思います。どの先生方も勉強と部活を頑張るよう背中を押してくれました。川内高校時代に部活と勉強を一生懸命取り組む環境に居たことで、私は色々なタスクをどうやって自分なりに両立させるか、という訓練が学生時代の早い段階で学べました。その訓練のお蔭で大学ではバイト、勉強、就職活動、恋愛とバランスを取らなければいけないモノは増えましたが、自分なりにバランスを保ちながら全てをこなしていききました。社会人になった今は仕事・家庭・遊び・プライベートでの趣味の時間・家族と一つ一つに重みがあるモノばかりですが「文武両道」の精神のもと、自分のペースでバランスを取りながら楽しく生活しています。在校生の皆さんには部活と勉強でしんどくてものちのち必ず役にたつスキルなので「修行をしている」と思っって一生懸命取り組んで頂きたいです。自分が力を入れすぎなのか、または力を入れなさすぎなのか、集中出来ないのか、体が感じ取れるようになるでしょう。この感覚を持つていると、「無理をする」前に自分自身をストップすることが出来るようになります。最近頑張りが過ぎて、バランスが取れず体を壊したり精神的に参ってしまう方が多いと聞きますがそんなっては大変です。「文武両道」の精神でバランスを保ってお互い人生を楽しみたいものですね。

東京可愛山同窓会五十周年に寄せて⑤

わたしが私である日々

濱田 玲 (川高五十五期)



Photo by 飯田岳人

中学二年生、既に身長は一七〇cmあり、モデルにスカウトされました。親の嫉と周囲の煩い声を掻き分けて、何故勉強が必要なのか分からずに生きてきました。スカウトされたことで勉強なんてもういなくても良いんだと思っていたのも事実です。そんな私を見越していたのでしよう、スカウトして下さった方からお手紙を頂きました。

「モデルは華やかな世界ですが、バカでは務まりません。学校の勉強が直接モデルに活かせる訳ではありませんが、貴方には息の長いモデルになつて欲しい為、高校までは親御さんの居るところでしっかりと勉強をして、たくさんのお友達と、今、しかできないことを楽しんで下さい。意欲があれば大学まで進んで欲しいです。」

正直、自慢できるような成績でもなく、ただ、親の言う高校へ進学しなければ、モデルにはなれないんだと受験勉強を楽しむ努力をしました。無事、高校生になると、こつちのもんだと言わんばかりに赤点取らなければ良いのだとさえ思っていました。朝から晩まで、スパルタ教育。授業の他に朝課外に放課後活用、謎にしか思えない題名の付いた授業を受け、学校に居る時間は十二時間、もし何時限目、という名前にすれば、1日のうち多い日で十時間授業...その上部活動をしていたら、脳がクタクタの中、身体までクタクタ。もう、これ以上どこに余裕があるのだろうかというくらいの高校生活。中間テストに期末テスト、小テスト、ミニテスト、文武両道を謳い、競争でなく、強歩大会。三十km走走しなれば補修と文武両道後日結果走らされる、完走できて足の親指の爪は毎年剥がれるほどでした。今思うと脳も身体も極限まで追い込まれるような環境でしかなかった高校生活です。

それでも、私がそんな高校生活を無事に終えることができたのは、自分よりも上手に高校生活を送り、楽しんでいた友達がいてくれたこと、私の自由な感情を否定せず、受け入れて励ましてくれたり、貶してくれたりした色んなお友達がいたからだと思えます。

執着心こそ人間が向上する為に必要な心だとは思いますが、強い想いの念を外し、ニユートラルな人間であるには、一人では出来得なかつたこと。発言の自由、表現の自由、時代により、時と場合により、苦勞することはあるし、文武両道の意味を改めて大人になつても噛み締めながら生きています。心が折れてしまうような辛いことも多い職業モデル、ですし、華やかで本来の姿というものが見えにくくなってしまいがちな職業ではあります。当たり前前のごときを当たり前前にできて、その上で自由という物を追求めることができるようになっていきたいというのが今の心境です。

少しだけ高校生活に文句を言うならば、そんなに窮屈な生活を卒業すると、こんなに自由が良いのだろうか?という伸びたゾムのようになってしまふこと、周りの人間が皆、そんなにストイックな環境に追い込まれて我慢強くは居られないことを知る驚愕の事実、謙虚さを履き違えてしまひやすい環境でもある、というところは書いておきたいと思ひます。ただ、自分のルーツに「鹿児島」がある限り、本当の意味での謙虚さを忘れずに生きていければ、私は私で居られると思ひています。

徳丸 律 (川高21期)

同期会便り

今年、私たち昭和44年卒業生の東京同窓会を、11月6日(金)に品川区東品川(天王洲アイル)「第一ホテル東京シーフォート」で開きます。前回、平成23年11月に皇居前の和田倉噴水公園レストランで開いてから、待ちに待った開催になります。

私たちの東京同窓会は、平成6年に当時新宿区河田町にあったフジテレビで開いて以後、3年ごとに、台場に移ったフジテレビで3回、九段会館で1回開催してきました。始めた当初は約30～40名の参加でしたが、3回目からは、川内ははじめすべての同期生にも参加してもらいたいと、住所の分かる全国の同級生に案内を続けました。

以降は青森県から鹿児島県まで約60名が参加してくれます。久しぶりに顔を合わせ、当時のよかニセ、よかオゴジョになって、当時の話、近況のこと話し合い、楽しい時を過ごしています。全国から集まってくれる参加者ですので、幹事会でもカラオケの二次会はもちろん、デイズニググッズなど東京ならではの景品を準備し、ピングや手作りのゲームを楽しんでもらうことも考えています。今回は、二次会ではたぶん卒業以来となるフォークダンスを行いました。嬉し、恥ずかしの顔で高校時代にもどっていました。同窓会后、急死した同窓生がいましたが、高校時代にできなかったことが出来たと、喜んでいた顔が忘れられません。

川内で開く21期同窓会との調整で、今回は4年後開催になりました。相原幹事長はじめ幹事(12名)は同窓会に関らず事あるごとに集まっていますが、準備は開催予定の1年前に会場を決めることから始まりました。これからは、4月には同級生の日程に入れてもらうため開会予告を送り、8月改めて開会案内を送り出欠を確認することになります。その間に、皆さん楽しんでもらうためにどのような演目をするか、また、午後から開く同窓会の前には、これまで東京を感じていただくために、スカイツリーや国会議事堂を見てもらうなどのオプションも取り入れましたが、今回はどうするか、しばらくは幹事間で喧々諤々の話し合いになりそうです。それも多くの同級生に参加してもらうための準備とあれば、我々幹事の楽しみでもあります。

現在60歳台半ばの我々昭和44年卒業の21期生も卒業50年後に、川内高校の卒業式に招待されるとのこと、当日、多くの同級生が参加できるように、今回の東京同窓会を橋渡しとして、ぜひとも成功させていきたいと思っています。

Table with 3 columns and 2 rows of event details including dates, times, and locations.

株式会社コスモユニテイ 代表取締役 野入 憲一

IJEC カウンセリングカレッジIJCC代表 東京家政大学名誉教授 医学博士 橋口 英俊

東和電気株式会社 特別顧問 相談役 藤 峯 武 一

田中正治 国際特許事務所 弁理士 田中正治

菊池史憲法律事務所 辯護士 菊池 史 憲

50周年記念特別投稿

東京可愛山同窓会発展のために

東京可愛山同窓会副会長 久保 信行

私は平成22年から東京可愛山同窓会副会長になり、進んで、組織強化・会員拡大担当を引き受け、自分の家に、会費や維持費振込依頼書を送ってもらい、維持費支払者リストを作成したり、総会の席上で出席者名簿を配布するようにしたり、各地の会費を調べ会費の引き下げをおこなったり、いろいろな提言をし、改革を図ってきましたが、会費引き下げを行った25年度は前年152名に比し、171名と出席者が増えたものの26年は149名とまた大きく減少しました。

最大の理由は、川内高校を卒業後、上京してくる生徒数が激減していることに加え、個人情報守秘義務とかで、卒業して上京してくる人達の名前や住所が殆どわからず、新卒者への連絡が全く出来ないためです。会費を卒業後4年間は無料とし、卒後10年間は割安にしても、案内状が手元に届かないことには話になりません。事務局の努力で、高校から親元の住所を聞き、子供さんに転送して下さいという形で案内状を出しましたが、1件も返事が来ず、参加者はありません。

一方では、今まで会を盛り上げて頂いた旧制中学校や新制高校初期の方々が高齢になり、年々参加者が減少していることが上げられます。

参考までに、26年度の各地の年度別（年齢別）出席者を見てください。

(単位：名)

	旧中・高女	1期～10期	11～20期	21～30期	31～40期	41～50期	51期以降	合計
	85才以上	75～84才	65～74才	55～64才	45～54才	35～44才	34才未満	
本 部	10	74	118	74	35	12	1	324
構 成 比(%)	3.1	22.8	36.4	22.8	10.8	3.7	0.3	100
東 京	6	46	57	27	2	6	2	146
構 成 比(%)	4.1	31.5	39.1	18.5	1.4	4.1	1.4	100
関 西	1	32	43	13	2	0	8	99
構 成 比(%)	1.0	32.3	48.5	13.1	2.0	0	8.1	100
福 岡	3	13	27	9	3	3	5	63
構 成 比(%)	4.7	20.6	42.9	14.3	4.7	4.7	7.9	100

各地の可愛山同窓会（川内高校同窓会）のご案内

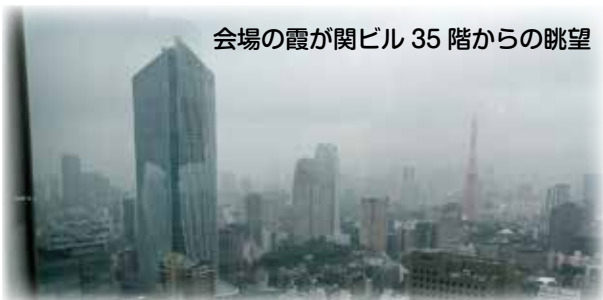
川内高校の同窓会は川内本部の他、鹿児島や東京・関西・福岡等各地にあります。

川内高校を卒業して遠方の土地に進学・就職した場合には、いろいろと困ったことや心配ごとが生じると思いますが、各地のOB会の事務局に相談されると、親切に対応していただけると思いますが、詳しくは川内高校や可愛山同窓会本部の方で卒業前に説明もあると思いますが、東京、関西、福岡の同窓会の事務局（代表役員）の住所と電話番号を紹介しますので、いざという場合には、遠慮なくご相談ください。また各地の同窓会では卒業後4年間は無料（又は割引料金）で招待していますので、ご連絡ください。心からお待ちします。

東京可愛山同窓会	会 長	愛 甲 彰 人 (16期)	電話	0 4 4 - 9 2 2 - 4 2 7 4
	幹 事 長	皆 元 正 幸 (24期)	電話	0 4 5 - 9 0 3 - 8 4 8 6
関西可愛山同窓会	会 長	山 口 健 一 (20期)	電話	0 7 2 - 9 4 0 - 2 8 3 3
	幹 事 長	柚 木 卓 郎 (20期)	電話	0 7 4 5 - 3 2 - 5 9 7 9
福岡可愛山同窓会	会 長	新 留 育 郎 (17期)	電話	0 9 2 - 9 6 2 - 4 5 4 7
	代表幹事	勝 目 伸次郎 (23期)	電話	0 9 0 - 9 5 7 5 - 0 8 9 0

<p>ビル清掃全般 有限会社 ジャパンアドバンス 代表取締役 小田原 康 郎 〒240-0033 横浜市保土ヶ谷区境木本町13-25 電話 045-711-0938 FAX 045-721-0968 (川高11期)</p>	<p>10期 東京可愛山同窓会 副会長 久保信行(北中) 幹 事 上野ツヤ(西中) 前監査役 前田成文(北中)</p>	<p>10期 男子有志一同 有馬 昇(高城東中) 内田 国健(高江中) 木場 貞成(西 中) 崎山 陸雄(北 中) 山下棟一郎(西 中)</p>	<p>10期 女性有志一同 久保アツ子(北 中) 近藤美美子(水引中) 菅原 紀子(高城東中) 当間 洋子(北 中) 西田 敦子(水引中)</p>	<p>有限会社 エス・イー・エス 代表取締役 柳 田 宏 幸 〒359-0001 埼玉県所沢市下富1043-142 電話・FAX 04-2942-3782 (川高9期)</p>
---	---	--	---	--

第 49 回 ～東京可愛山同窓会 (総会)・スナップ集～



会場の霞が関ビル 35 階からの眺望

▶ 愛甲会長挨拶



▶ 皆元幹事長活動報告



▶ 高城会計担当収支報告



▶ 木下会計監査担当報告



*** 来賓挨拶 ***



▶ 可愛山同窓会山田島会長



▶ 川内高等学校 田島校長先生



▶ 懇親会司会役
未永・石上さん

株式会社
五井キャピタルホテル
シングル ¥5,800 ~
会社役員
齋藤 信子
〒290-0081
千葉県市原市五井中央2-3-2
電話 0436-21-1101
FAX 0436-21-1840
(川高20期)

株式会社 南武
会 長
崎山 美親
事務所
〒179-0073
東京都練馬区田柄3-17-5
電話 03-3926-2466
FAX 03-3926-3466
(川高19期)

第一東京国際特許事務所
所長・弁理士
小島 高城郎
〒100-0006
東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館9階
電話 03-3284-0301(代)
FAX 03-3284-0305(代)
(川高16期)

千代田区立教育研究所
愛甲 彰人
〒101-0048
東京都千代田区神田司町2-16
電話 042-665-3952(自宅)
(川高16期)

日本製粉株式会社
特別顧問
青崎 濟
〒151-8537
東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目27番5号
電話 03-3350-2316
(川高14期)

同窓会第2部懇親会



東京薩摩川内会青崎会長新任挨拶



会の発展とご健勝を祝って



人生いろいろ
プロ歌手の永山君
木佐貴投手後援会藤峯会長



川高7期の皆様 多くの参加に感謝です



川高9期の皆様 マドンナを囲み わっかね



花の10期 もててる人は？先生かな！



飛んで26期・27期の皆様 クラブ仲間ですか？

株式会社エース・システム・エンジニアリング
代表取締役
堀之内 佳武
〒187-0045
小平市学園西町2-14-4
LM209
電話 042-348-5671
FAX 042-348-3785
(川高25期)

株式会社
日本リスクコンサルタント
損害保険トータルプランナー
ファイナンシャルプランナー
代表取締役
小平 義久
〒231-0007
横浜市中区弁天通5-70
損保ジャパン日本興亜横浜馬車道ビル6F
電話 045-201-7855
FAX 045-201-7875
(川高25期)


福山 喜代子
旬肴素処
〒104-0061
東京都中央区銀座2-16-7
電通恒産第3ビル1階
電話・FAX 03-5565-1883
(川高24期)

AJMMC
特定非営利活動法人
日本ミャンマー交流協会
理事
高柳 健一
〒101-0047
東京都千代田区内神田3-5-1
大審ビル5B
電話 03-6204-4107
FAX 03-6206-4108
(川高24期)

株式会社キーバインド
代表取締役
坂元隆也 (川高23期)
専務取締役
渡邊泰久 (川高26期)
〒171-0033
東京都豊島区高田3-18-11
シルヴァー高田馬場ビル4階
電話 03-5928-9021
FAX 03-5928-9022



お楽しみ抽選会 じゃんけん争奪戦



勝利者に藤峯後援会長から賞品授与



日ハム木佐貴投手の色紙とボールをゲット!



勝負は時の運



誰が勝ち残れるかな?



木佐貴投手のグローブとボールがこれから代々引き継がれます



校歌斉唱 川中生合唱



若手テーブルに先輩乱入で談笑



44期アラフォーの話題は?何



川高校歌斉唱：年代を超えて意気高らかに！♪大川の水澄むところ♪



会員のご健勝・ご発展を祈念します

KDi Advisory Service

株式会社
代表取締役
公認会計士 税理士
井原 秀 憲

〒102-0076
東京都千代田区五番町 2 番地
横山ビル 3 階
電話 03-3222-0013

(川高26期)

有限会社リア機工

代表取締役
砂田 利 美

〒179-0074
東京都練馬区春日町1-18-16
電話 03-3825-2328
FAX 03-3825-8211

(川高26期)

株式会社インテック

代表取締役
脇園 弘 康

〒113-0033
東京都文京区本郷2-10-5
富士ビル別館
電話 03-3830-1911
FAX 03-3830-1912

(川高26期)

株式会社
トラスト・ファイブ

代表取締役
南 蘭 浩 一

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷2-22-3
渋谷東口ビル3階
電話 03-3409-1351

(川高26期)

鹿児島酒処ふるさと

代表
小 山 猛

〒160-0004
東京都新宿区四谷1-8-14
四谷一丁目ビルB1
電話 03-3352-0031
JR各線四谷駅徒歩3分
東京メトロ南北線四谷駅徒歩1分
(川高26期)

ご支援並びにご協力、ありがとうございました。

平成26年12月に東京体育館で開催されました東日本大震災復興支援第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会への出場に際しましては、皆様方から多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

今大会は、4年連続8度目の全国の舞台ということで、『今度こそ全国ベスト8!』を目標に高い意識で練習を重ね、強い決意で臨んだ大会でした。

初戦当日の会場には、関東在住のOBや東京可愛山同窓会の皆様、東京薩摩川内会の皆様、また地元川内の地から田島校長先生もかけつけてくださるなど、多くの方々においでいただき、激励のお言葉とご声援で盛り上げていただきました。16時30分からの試合開始予定が遅れ、終わる頃には外は真っ暗でしたが、最後までチームの精一杯のプレーと応援を見守っていただきました。

残念ながら、初戦敗退という結果に終わりましたが、“あきらめない川高らしい戦いぶり”は、三年生のこれから進む道に、後輩達の目指すチーム作りに引き継がれ生かされていくことと確信しております。今後ともご支援の程よろしくお願い致します。簡単ではございますが、書面にて御礼に代えさせていただきます。

平成27年1月吉日 川内高校男子バスケットボール部父母会一同



【一回戦戦評：12月23日】

県立豊浦	59	16 - 11	47	県立川内
		12 - 18		
		21 - 9		
		10 - 9		



9年ぶり出場の県立豊浦と4年連続出場の県立川内の対戦。

第1ピリオド。豊浦は3-2ハーフコートゾーン。対する川内は1-2-2オールコートプレスから3-2ゾーン。試合開始、豊浦が連続得点するもすかさず川内も決め返す。豊浦はマンツーマンにディフェンスを変更、その後流れを作り16-11で豊浦リード。

第2ピリオド。豊浦のアウトサイド中心の攻撃に対し、川内はインサイド中心の攻撃を展開、徐々に点差を詰め、残り4分18-17川内が1点差まで追い上げ豊浦のタイムアウト。その後、川内#16土器手が3Pバスケットカウントを含めた連続得点で逆転に成功し、流れを引き寄せたかに見えたが、ここで豊浦がオールコート1-2-2を仕掛け再度リードを奪う。しかし最後に川内#14松本のブザービーター3Pで逆転し、28-29で川内の1点リードで前半を終えた。

第3ピリオド。豊浦はハーフコートマンツーマン、川内は3-2のハーフコートゾーンでスタート。豊浦はアウトサイドが立て続けに決まり一気に39-31とリードを奪う。その後豊浦#14のアウトサイドシュートを中心に得点を重ね49-38とリードを広げ最終ピリオドへ。

第4ピリオド。一進一退の攻防が続く中、残り2分55-45で豊浦が10点のリード。ここで川内タイムアウトも試合は動かずタイムアップ最終スコア59-47で豊浦が一回戦を突破した。

東京可愛山同窓会事務局掲示板

- 参加費の振込方法
同封の振込用紙にて所定の金額をお振込みください。
- 振込用紙で出欠の確認を行いますので、振込用紙には卒業年度、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。
- 振込用紙には振込先が印刷されていますが、振込用紙を紛失したり、メール等で総会の案内を知った方々のために振込口座をお知らせします。
(郵便局の口座) 口座記号 00140-2 口座番号 714884 口座名 東京可愛山同窓会

期別広告

(川高27期) 祝 50周年 川内高校 27期生一同	(川高22期) 有志一同 田畑久美子(上甗中) 若松 正次(東郷中) 山下 重孝(入来中)	(川高17期) 同期会・同窓会におじゃったもんせ 平成27年同期会 10月24日(土) 会場: 弥生会館	(川高12期) 祝 50周年 関東・関西 同期生一同	(川高7期) 松下寿一 有志一同	株式会社 ライトスタッフ 代表取締役 末永力男 〒151-0051(原宿本社) 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-60-1 電話 03-3796-0841(代表) 〒532-0011(大阪営業所) 大阪市淀川区西中島4-7-20 日宝新大阪第1ビル307号 電話 06-6306-6011 (川高27期)
--	--	---	--	---------------------------------------	--